



福井大学教育学部附属
義務教育学校

No. 03

令和元年7月19日

附 学校だより

社会創生プロジェクト 1～9年生の取組

前期副校長 皆川 孝志

これまでもお伝えしているように、昨年度より附属義務教育学校では新しい取組が始まっています。それは研究開発「社会創生プロジェクト」の導入です。国語科「話すこと・聞くこと」「書くこと」の2領域と総合的な学習の時間及び生活科を包括した学習です。発達段階に応じ、1・2年生（1段階）、3・4年生（2段階）、5・6年生（3段階）、7～9年生（4段階）として協働探究カリキュラムを組み、長い期間の学びを紡いでいきます。また、「発意－構築－遂行・表現－省察」の5つの過程を1つの探究サイクルとして構成し、このサイクルを繰り返していきます。このような学習を積み重ねることで、社会に意思をもって生き、自立的な学びができる子供を育てるために必要な資質・能力を育てていきます。この研究開発は、文部科学省の研究指定（4年間）を受けています。

研究開発の2年次となった「社会創生プロジェクト」について、各学年の取組を紹介します。

[1年生]:『学校をもっとすきになろう』

－なかよしプロジェクト－

2年生との学校探検での「もっと学校の中を見て回りたい!」「職員室に何があるか知りたい!」などの発意から、「調べたことを幼稚園の子やお客さんに伝えたい!」と活動が広まりました。「紹介ポスターを作って伝える」ことになり、只今ポスターを制作中です。並行して、行っている2年生（学校探検・生き物ランドに招待される・学団活動）や附属幼稚園児（しゃぼん玉遊びなど）との関わりを通して、「もっとなかよくなりしたい!」「もっとつながりたい!!」と気持ちが高まっています。これからも人とのつながりをどんどん広めていきたいと考えています。

[2年生]:『1年生を笑顔いっぱいにしよう』

1年生の時の情熱が冷めずに、「1年生に学校は楽しいところだともっと教えてあげたい」という発意でこのテーマを設定しました。

－学校探検プロジェクト－

学校の様々な部屋の宝を紹介しながら探検しました。手作りの地図を使ってツアーのように回ったり、クイズを各部屋に用意したりするなど、1年生への思いやりがあふれる活動になりました。

－生き物ランドプロジェクト－

育てている生き物について、不思議や発見を1年生に発表する活動です。調べたことを絵や言葉に表したり、実際に生き物を触らせたりする工夫で1年生を笑顔にしてあげることができました。

これから、栽培している野菜をおいしく食べるプロジェクトを立ち上げていく予定です。

[3年生]:『福井の食と歴史』

駅周辺を探索してたくさんのお土産を扱う店をめぐり、お客さんやお店の人にインタビューをしてきました。また、県庁では福井城址についての見学をしたり、県庁の方から話を聞いたりしました。こうした活動から、子供たちは福井のお土産や、福井の歴史、新しい街づくりについて、詳しく調べたいという発意をもちました。学年全体で話し合い、まずは「羽二重餅」と「福井の町の歴史」について詳しく調べることになりました。先日、さっそく「羽二重餅」を生産している方をお招きし、貴重なお話をお聞きしました。これからは、子供たちの発意を大切にしながら学習を進めていきます。

[4年生]:『福井県だけのみりょく&ひみつを伝えよう ～みんなで情報キャッチ～』

昨年度の学習（わたしたちの町・福井市）よりレベルアップしたいという発意から、対象を福井県に広げました。まず、福井駅周辺で福井県の魅力を尋ねるインタビュー活動を行いました。次に、若狭地方に出かけて見学や体験活動を行うなどの調査を行いました。そこから分かったことを新聞などにまとめ、実践研究福井ラウンドテーブルで発表しました。発表後、今までで身につけた力について振り返りました。そこでは、「学ぶ力・聞き取る力・まとめて伝える力・課題を見つけて主体的に進む力・協力する力・あきらめないで続ける力」などが挙げられました。これからは、これらの力をレベ

ルアップしながら、みんなの課題から今後の計画を立て、取り組んでいく予定です。

〔5年生〕：『頭・心・5感フル活用 つながろう・つなげよう』

5年生全員で「自分たちが取り組みたいこと」について話し合いました。「これまでに学んできたことをこれからの学びにつなげたい」「自分たち5年生同士が今まで以上に繋がりたい」という思いをもち、このテーマを設定しました。最初の取組は金沢の街に出かけ、福井との違いについて調査活動を行いました。班別に行動する中で、いろいろな見学や体験をしました。その中で感じたことを実践研究福井ラウンドテーブルで発表しました。福井とは違うように感じた「人々の街への思い」「景観や施設」について、これから学びをつないでいく予定です。

〔6年生〕：『発見・発信・発展』

5年生の時に長い時間をかけて話し合い決めたテーマが「発見・発信・発展」です。昨年度は「F(Fukui)F(Fuzoku)発信プロジェクト」「地元お宝発掘プロジェクト」を行い、福井県や自分が住む地区の魅力について調査し、発信しました。そして、6年生では、福井の「まちづくり」に尽力している方々をゲストティーチャーに招き、どのように福井に貢献することができるかを話し合い、模索してきました。そして、「イベントを行うまちづくり」「エコ活動を啓蒙・実践することからまちづくりに繋げる」「5年生時の地元お宝発掘プロジェクトを深め、イベントに繋げるまちづくり」を立ち上げました。これから子供たちが考案した「まちフェス」が実現するよう学習を進めていきます。

〔7年生〕：『未定』（今後決定していく予定）

議論に議論を重ね、学年目標が「107のキセキ」に決定しました。カタカナの「キセキ」には、理想の学年像で出てきた目標を3年間ですべてクリアする「奇跡」と、その足跡として残る自分たちの「軌跡」、さらには一人一人の個性を表した「輝石」や「奇石」という様々な意味合いが込められています。

今後は、学年プロジェクトのテーマを決定し、夏休み中に現地調査やインタビューなどを取り入れたレポート課題に取り組んでいく予定です。まずはテーマと自分の興味の接点から課題を設定し、調べてみることで、そして、便宜上ではなく、子供たちの興味ややりたいことに沿って協働探究が進む部門が誕生することなどを期待しています。

〔8年生〕：『未来創作』

7年生での学びをさらに深めようと再度調査探究活動を実施しました。企業や専門機関を訪問し、自らが所属している部門や小部門についてどんどん詳しくなっていくことで、自分たちが獲得した情報を他者に発信したいとの思いをもちました。「体験会を開こう」、「話を聞いてもらおう」など、発信していく方法がいくつか挙げられてきています。一方で、およそ1年間の学年プロジェクトを終え、残された実施期間に焦りを感じている生徒も出始めました。部門ごとで深まっている一方で、全体として統一感がないことを心配する声、調査したことをまとめて発表するだけでは未来を創作したことにはならないという声、自分たちの最終目標をどこに置くのかを真剣に考えるべきであるという声も挙がってきています。

これから文化祭に向けての構想を学年全体で話し合いながら設定し、動き出そうとしているところです。

〔9年生〕：『職業』

8年生では、7年生での学びをふまえ、「職業」が、その職業に就く人の「人生」そのものと大きく関わっていることに着目し、インタビュー活動を行い、学んだことを文化祭で発表しました。その後、これまでの学びを一冊の本「15歳のハローワーク(仮)」にまとめました。また、修学旅行では、文部科学省やBenesseなど様々な場所で、「15歳のハローワーク(仮)」をもとに、これまでの学びを伝え、さらに内容がよいものになるように様々な視点からアドバイスをいただきました。

そして、9年生では同年代の生徒と交流し、自分たちの学びを発信したり、意見を聞いたりしたいという思いから、高志中学校の3年生と学びを交流しました。互いがこれまで学んできたことをもとに「福井のこれから」「私たちに必要な力」など、共通テーマをグループごとに考え議論を深めました。

これから、学年プロジェクトで培った合意形成能力、粘り強く取り組む力などを活用しながら、文化祭でのクラス単位で演劇活動に取り組んでいきます。

このように長期的なプロジェクト型学習を義務教育9ヶ年で発展的に積み重ねています。これからも「社会創生プロジェクト」での子供たちの学びを温かく見守っていただけたらと思います。

明日から夏季休業となります。子供たちの安全安心が最優先され、再び元気な笑顔が学舎に戻ってくることを願っております。どうぞよろしく願いいたします。

